

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル 2PRA 分科会

第 5 回会合議事要旨

日時:2014 年 11 月 4 日 (火) 14:00~17:30

場所:電力中央研究所 大手町本部 7 階第 4 会議室

出席者:

委員:阿部(主査),成宮(副主査),小野田,楠木,豊嶋,中島,西村,橋本,濱崎,松尾,村松,渡邊(廣川代理),中村(幹事) 13 名出席

常時参加者:宇井,片桐,野村,星,井上(根岸代理) 5 名出席

配布資料:

P10SC5-0:原子力学会標準委員会 リスク専門部会 第 5 回レベル 2PRA 分科会 議事次第

P10SC5-1:原子力学会標準委員会 リスク専門部会レベル 2PRA 分科会 第 4 回会合議事要旨

P10SC5-2:レベル 2PRA 分科会方針について

P10SC5-3-1-1:熱水力 RM「⑧溶融炉心・冷却材相互作用(FCI)」に係る改定案

P10SC5-3-1-2:熱水力 RM「⑧溶融炉心/コンクリート相互作用(MCCI)」に係る改定案

P10SC5-3-1-3:熱水力 RM「⑧炉心損傷過程」に係る改定案

P10SC5-3-1-4:熱水力 RM「②水素挙動」に係る改定案

P10SC5-3-2-1:レベル 2PRA 標準と SAM 標準との比較について

P10SC5-3-2-2:レベル 2PRA 標準と SAM 標準との比較について 別紙 1 SAM 標準へのアウトプット

P10SC5-3-3:資料 1 国内レベル 2PRA 標準と IAEA Safety Guide SSG4 との比較・検討

P10SC5-3-4:レベル 2PRA 分科会 今後のスケジュールについて

議事要旨:

議事に先立ち,事務局より代理を含めて委員 16 名中 13 名が出席しており,本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回作業会議事要旨確認 (P10SC5-1)

中村幹事より,前回の作業会における議事要旨について説明があり,以下の質疑応答があった。

Q:前分科会主査からのソースタームの不確かさについてのコメントは,議事における石川委員からの提案で対応が済んでいるか。

A: 対応するように進めており，前分科会主査にも示している。

第4回の議事要旨についてはさらに2週間くらいコメントを受け付けることとした。

2) レベル 2PAR 分科会方針について (P10SC5-2)

野村常時参加者より，今後のレベル 2PRA の標準改定の活動方針及びスケジュールについて，段階的な取組案が示された。

この方針案について，参考とする材料に OECD/NEA Level 2 PSA の Technical Opinion Paper の最新版を確認するようにコメントがあり，必要であれば入れ込んでいくこととし，追加のコメントがある場合には 11/19 までに連絡することとした。

3) 熱水力ロードマップの調査文献の選定結果と標準改定の要領について(P10SC5-3-1-1～5-3-1-4)

熱流動部会のとまとめた熱水力ロードマップ(RM)調査結果及び現行標準の改定案について，中村幹事及び調査を担当した委員より報告がなされた。

FCI については，調査結果の中に試験条件について詳細に記載するよう，水素爆発の議論において，建屋側における水素爆発の取り扱いについてコメントがあり，引き続き，改定案の記載内容を検討していくこととなった。また，作業全体の進め方について，今回追加で収集した文献は事務局で収集し一括管理しておいたほうがよいという意見が述べられ，対応することとなった。

4) レベル 2PRA 標準と SAM 標準との比較について (P10SC5-3-2-1, PC10SC5-3-2-2)

楠木委員より，現行のレベル 2PRA 標準と SAM の標準比較作業について進捗の報告があった。

作業方針に関わる記載や全体として表現の仕方を見直すようにコメントがあったものの，改定案の原案についてはこの形で示していき，議論のある部分についてはさらに検討を進めることとした。

5) 国内レベル 2PRA 標準と IAEA Safety Guide SSG4 との比較・検討 (P10SC5-3-3)

橋本委員より，現行のレベル 2PRA 標準と IAEA SSG-4 の要求事項の比較作業について，進捗報告があった。

本調査は引き続き継続し，作業を進めていく上での課題については議題 6)にて議論することとなった。

6) レベル 2PRA 分科会 今後のスケジュールについて (P10SC5-4)

中村幹事より，レベル 2PRA 分科会の改定作業における短期スケジュール，各作業の進捗状況，課題が示された。

作業の課題として挙げられた IAEA との比較作業におけるリソースについては、3 名人員を増員することとし、比較表のレビューについては、2 段階に分け、次回の分科会までに方向性と論点をレビュー、さらに次回に対応方針をレビューすることとし、改訂文案の作成は IAEA と ASME で一本化して進める方針が述べられた。

委員から特にコメントは無く、この方針で進めていくことが了承された。

次回の第 6 回分科会は、12 月 9 日(火)14 : 00~17 : 00 に開催することとなった。

以上